

東大和市人口ビジョン（素案）及び東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの結果について

東大和市における人口の現状と将来展望を示す「東大和市人口ビジョン」及び平成27年度から平成31年度までの施策の基本的方向を示す「東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、パブリックコメントを実施したところ、次のとおりの結果となりました。

1 提出された意見の数及び提出した市民等の数

東大和市人口ビジョン（素案）	0件 0人
東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）	12件 4人

2 意見の提出期間

平成27年8月26日（水）から平成27年9月24日（木）まで

3 提出された意見の要約及び意見に対する市の考え方

別紙のとおり

提出者	質問	意見の要約	市の考え方
1	1	<p>中長期的な視野で改善を図っていくためのPDCAサイクルを確立することが不可欠と考える。目標値に、四捨五入すると同じ値や現状維持という項目が多くあるが、改善の必要はないのか。改善の必要性がなければ、違う実施項目を設定すべきではないか。</p>	<p>東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」といいます。）の施策や事業の進捗管理につきましては、各基本目標に設定した成果目標及び各施策に設定した実施目標に掲げた目標値を基に、点検・評価を行うもので、その方法は、P（計画）、D（実施）、C（評価）、A（改善）サイクルによるものであります。このことから、ご意見を踏まえ、総合戦略にPDCAサイクルによることを追加記載します。</p> <p>目標値に、四捨五入すると同じ値や現状維持という項目があることにつきましては、将来的に減少傾向にあるものなどはその減少を抑制し、「現状維持」とすることを考えており、それを目標値に設定しているものであります。</p>
2	2	<p>「日本一子育てしやすいまち」をめざすのなら、子育て世代の視点ではなく、子どもの視点を持って「日本一子どもが育つまち」を目指してほしい。</p> <p>子どもの環境は千差万別である。平均的な子育て支援で、親頼みや親の裁量による施策ではなく、社会が育てる感覚が必要ではないか。</p> <p>「日本一子育てしやすいまち」をめざすのなら、「東大和市で生きている子は親がいようがいまいが分け隔てなく東大和市が育てます」ぐらいの気概が必要ではないか。</p>	<p>東大和市では、人口減少を抑制するため、子ども子育て施策を重点的に取り組むこととしているため、その目標として「日本一子育てしやすいまち」を目標としているものです。</p> <p>ご意見にありますような、子育てに、「子どもの視点を持つこと」、「社会が育てる感覚が必要なこと」、「東大和市で生きている子は親がいようがいまいが分け隔てなく東大和市が育てるという気概を持つこと」につきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、総合戦略を検討するに当たり、「東大和市まち・ひと・しごと創生会議」の委員から「子どもを主役にした事業」や「子どもの視点での事業」などについてご意見をいただき、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）41ページにおきまして、事業の再掲になりますが、「子どもを主役にした施策」を一覧にして記載しております。</p>

2	3	<p>待機児童をゼロにする対策は大事であるが、それは親（大人）の視点である。学童保育を利用する子どもにとって居心地のよい場所にすることが大切であり、そのためには、子どもの意思で学童保育所を選択できたり、少人数とすることが必要である。</p> <p>それに加え、子どもにきちんと向き合える質の高い学童保育職員が十分な人数がいるべきではないか。ボランティア精神に期待するのではなく、責任を自覚させるだけの給料を与えなければならない。例えば教員並みの給料を与えるなどにより、優秀な保育士が東大和市を目指すようになって考える。</p> <p>教員だけでなく、子どもに関わる職業全ての地位を上げることを考えてほしい。</p>	<p>家庭環境や社会環境の変化から、学童保育所のニーズは高まり、対象学年の拡大などを実施したことにより、利用者が増加しているところであります。</p> <p>学童保育所の選択につきましては、現制度でも自由にできるものでありますが、放課後の子どもの安全の確保などを考慮しますと、子どもの意思だけで学童保育所を選択をさせることは難しいものと考えております。また、学童保育所の環境を少人数とすることにつきましても、利用者の現状から、現時点では難しいものと考えております。</p> <p>なお、市では、放課後の子どもの居場所づくりとしまして、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）22ページ施策4子育てとしごとの両立を支える②学童保育所等の運営にありますように、「学童保育所運営事業」、「ランドセル来館事業」、「放課後子ども教室事業」などを行っているところであります。</p> <p>また、学童保育所職員の待遇改善や人数の拡充などにより、学童保育所の質の向上を図ることにつきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。</p>
	4	<p>子ども手当の現物支給ができるなら、保育料を含み義務教育に掛かる費用を全て無料にしてほしい。給食費から教材、体育着、修学旅行費まで全てである。</p> <p>低所得世帯への保護制度があるが、それは子どもが引け目を感じてしまうこととなる。子どもが堂々と学校に通える現物支給なら、子どもがいない自分も納得がいく。</p>	<p>保育料や義務教育に掛かる費用を無料化して、家庭環境にかかわらず、子どもを分け隔てなく社会で育てることにつきましては、貴重なご意見であると考えております。</p> <p>子ども手当（現制度では「児童手当」になっています。）につきましては、国の制度でありますことから、その手当を活用しまして、保育料や義務教育にかかる費用を無料化することはできないものと考えております。</p> <p>家族の営みは、それぞれの家族の生き方、価値観が尊重される必要があり、現状では、各種制度を利用して生活することが大切であると考えております。制度の周知に加え、どのようにコーディネートしていくかが重要となりますことから、今後も、子育てに関する支援制度の充実と合わせて、相談業務を充実して子育て家庭を支援してまいりたいと考えております。</p>

3	5	全体として、既に発表されている市の計画や施策を繰り返している印象が残るため、もう少し具体策を提示してもいいのではないかと。	市では、第二次基本構想（平成14年～平成33年度）及び第四次基本計画（平成25年度～平成33年度）を踏まえ、子どもから大人までが生涯にわたって住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを目指すとともに、特に、まち・ひと・しごと創生の観点から、結婚・出産・子育てに関する希望や雇用・就労に対する希望などを実現することができるまちを目指して、総合戦略を策定するものであります。 このことから、既存の個別計画やそこに定められております施策や事業をまち・ひと・しごと創生の観点から抽出しているものもあります。既存の個別計画やそこに定められております施策や事業を含めて、総合的に施策や事業を推進することによって、人口減少の抑制を目指しているものであります。
	6	当市は、高校生・中学生以下を特に大事する必要がある。図書館・児童館等に自習スペースを設けるなどの勉強環境の整備や、図書館の年中無休化、開館時間延長も必要ではないかと。	子どもたちの学習環境の整備や図書館の充実につきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。 また、ご意見を参考に、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）21ページ施策3子育ての力になる③子どもがいきいきと育つ環境の充実におきまして、「図書館（3館）の運営事業」を追加記載します。
	7	子育て環境を整備するため、学童受け入れ態勢として、学校での放課後の学童利用、障害児専用学童等の工夫が必要である。児童生徒の病気治療費の無償化の拡大も検討すべきである。	子育て環境を整備するために、学童の受け入れ態勢の整備や、児童・生徒への医療制度の充実につきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。 なお、学童の受け入れ態勢としまして、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）22ページ施策4子育てとしごとの両立を支える②学童保育所等の運営にありますように、「学童保育所運営事業」、「ランドセル来館事業」、「放課後子ども教室事業」などを行い、放課後の子どもの居場所づくりに努めてまいります。

3	8	<p>地域への関心をもってもらい、観光客等の入り込みを増大させ、にぎわいのあるまちを作っていくという方向性について、当市の大きな特徴は、多摩湖を中心とした自然環境だが、隣接する遊園地、武蔵村山の公園・温泉施設等と一体的に捉え、相互に入り込みやすく、回遊性のある環境を整備することが必要ではないか。市町村の広域的な連携により、相互のアクセスを向上させることも有効と考える。</p> <p>玉川上水を世界遺産に登録しようという動きがあるようだが、関連市町村とともに啓発・推進活動を行うことにより、人々の関心を集め、人の流れにインパクトを与えることができると考える。</p> <p>広域的な市町村連携という視点は、災害対策に限らず、あらゆる施策で常に求められるアプローチだと考える。</p>	<p>観光客の増加、にぎわいの創出のために、回遊性のある環境を整備すること及び広域的な市町村連携という視点を持つことにつきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。</p> <p>また、災害対策だけに限らず、市の施策を推進する上では、市町村連携という視点を考慮して、事業を行ってまいります。</p>
4	9	<p>働く親にとって子どもの小学校入学後の支援が足りない、子どもが安全に遊べる場所が少なく、公園の整備が不足していることを理由に、他市への転居を考えている。</p>	<p>子育て施策の充実や子どもが安全に遊べる環境の整備は、市に定住し、また移住をしていただくためにはより重要なことでありますので、総合戦略の策定を契機に、より一層の充実・改善を図ってまいります。</p>
	10	<p>学童保育の充実について、以下3点を提案する。</p> <p>①学童の利用時間を19時（可能ならば20時）まで延長する（東大和市は18時までしか学童保育の利用ができず、都心に勤める親には時間までに帰宅ができない）。</p> <p>②保育園と小学校で区切らず、子育て支援をトータルで考え、保育園でも放課後の小学生の受け入れを行なう。</p> <p>③民間学童を誘致する（有料でもお稽古事ができる、捕食が出るなどのメリットがあるならば預けたい親はいるはず）</p>	<p>①学童保育所の開所時間延長につきましては、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）22ページ施策4子育てとしごとの両立を支える②学童保育所等の運営の「学童保育所開所時間の延長」にありますように、現行の午後6時までの開館を、平成28年度から、午後7時までには延長することを予定しております。</p> <p>②保育園での小学生の受入れにつきましては、現状の制度では困難であると考えております。</p> <p>③民間学童の活用につきましては、今後の子育て支援施策を検討するなかで情報収集をしてまいります。</p>

4	11	<p>市内の公園は、夏場は草木が生い茂り、また遊具の手入れがされていないことなどから、安心して子ども遊ばせることができないため、武蔵村山や東村山、青梅の公園に行っている。子ども安心・安全に遊べるよう、高知県などが実施している公園管理のボランティア制度を導入することを提案する。</p>	<p>公園管理にボランティア制度を導入することにつきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）39ページ施策3安心して暮らせる環境をつくる②緑と水の環境整備の「特色ある公園づくり事業」にありますように、公園の遊具等の更新にあわせ、市内の一部の公園になりますが、地域の方々との協働による公園や、子どもたちが安心・安全に遊べる公園づくりを目指してまいります。</p>
	12	<p>学区制を撤廃し、市内のどこの学校でも選べるようにしたり、子どもごとに適した学校を選ぶ権利を与えることで、いじめ対策にも対応できる。また学校ごとの人気ははっきり出ることから、各学校が切磋琢磨する教育が行われるのではないかと。</p>	<p>市では、災害時における登下校の安全性の確保や学校と地域社会との結びつきが弱まるなどの影響がありますことから、引き続き指定学校制を採用し、学校選択制の導入は現時点では行っておりません。</p> <p>学区制の廃止のご意見につきましては、今後の事業の展開の参考とさせていただきます。</p>